

## 子ども学部

### ◎ 子ども学科の3つの方針

#### 《子ども学部子ども学科がめざす人間像》

子どもに対する理解と愛情を基盤に、その心身の発達を助長する専門的な知識技術と応用的能力を備えた社会人

#### 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

大学設置基準にもとづき、本学が定める履修要件に沿って126単位以上を修得し、以下の観点別能力を身につけた者に卒業を認定し、学位を授与する。

##### [知識・理解]

- ① 教育学、保育学を中核に、心理学、福祉学、健康学、環境学の隣接諸科学を応用した子どもに関する学際的、総合的知識を修得している。
- ② 文化、社会、自然に関する知識を身につけ、多文化・異文化に関する柔軟な理解と共感を持つことができる。

##### [思考・判断]

- ③ 教育・保育の現場で生じているさまざまな課題について、複眼的な視点から子ども及び子どもの育つ環境を理解し、子どもとその親への支援を考えることができる。
- ④ 社会や自然の抱える諸問題を自ら発見し、論理的に分析・考察して、自らの見解を形成することができる。

##### [技能・表現]

- ⑤ 教育・保育環境の構成、教材・教具の工夫をし、子どもの発達に応じた指導をすることができる。
- ⑥ 知的活動や社会生活に必要な技能（コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー）を修得している。
- ⑦ 課題解決に必要な情報を収集し、分析・整理して、その結果を適切に表現することができる。

##### [関心・意欲・態度]

- ⑧ 学習の成果を自らの生活や社会に還元しようとする主体的態度を身につけている。
- ⑨ 多様な価値観と責任感を持って他者と協調・協働して行動することができる。
- ⑩ 教師・保育士の職務に対する使命感や責任感を身につけ、愛情をもって子どもに接することができる。

#### 教育課程方針（カリキュラム・ポリシー）

- ・人間の発達と教育のあり方を考究する教育学と幼児期の子どもの発達と支援のあり方を考究する保育学を中核に据えつつ、心理学、福祉学、健康学、環境学など隣接諸科学の知見を応用することにより、子どもに関する学際的総合的な科目を配置する。
- ・実践的指導力を育成するための応用的知識および技術を習得するため、演習科目と体験学習科目を配置する。
- ・自律的学習態度と問題解決力を育成するための少人数のゼミナール形式の演習科目を配置する。
- ・子どもに対する複眼的な視野からの理解を深めるために、小学校教諭、幼稚園教諭、保育士の免許・資格の取得が可能な教育課程を編成する。

#### 入学者選抜方針（アドミッション・ポリシー）

子ども学科では、将来、保育所、幼稚園、小学校の教員など、子どもに関わる職業に就く人材を育成することを目標としており、次のような能力、意欲、適性をもった学生の受け入れを基本方針とする。

- ① 子どもが好きで、将来何らかの形で子どもと接する職業に就きたいと考えている人
- ② 知的好奇心が旺盛で、大学での学習や教員・保育士の採用試験に必要な基礎学力がある人
- ③ 教育・保育の仕事を理解し、将来の目標に向かって自らを向上させようと努力する人
- ④ 子どもの教育・保育が将来の日本の発展に寄与することを自覚し、使命感、責任感がある人

以上のような基本方針に基づき、子ども学科では保育士資格、幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状が取得できる専門科目群を準備している。また、単なる知識や技能の習得に終わらないよう、必要な保育実習、教育実習を4年間のカリキュラムの中に配置している。入学後は、理論と体験を共に重視する学習活動を通して、しっかりした保育指導や教科指導ができ、豊かな子ども観や人間観を身につけるための専門的教育をしていくが、そのためには高等学校において基本とされる教科を幅広く勉強し、確かな学力として習得しておくことが極めて重要である。